

# 2015年3月期 上期 決算概要

---

テルモ株式会社  
上席執行役員 IR、広報室担当  
北畠 一明

2014年11月5日

2015年3月期 上期の決算概要につきまして説明いたします。

## 決算ハイライト

### 全社

- 薬価・公定価改定の影響を吸収し、増収増益を確保

### 心臓血管

- 海外カテーテル・ニューロが二桁伸長、公定価による国内減収を吸収
- Ultimaster(新DES)を欧州に加え、アジア・中南米へ拡大中

### ホスピタル

- 消費税の引き上げ、医療保険制度の改定などにより受診抑制の動き
- 基盤医療器を中心とした原価改善を推進

### 血液

- 厳しい市場環境が続く中、増収増益を維持
- 血液自動製剤システムやアフェレシス治療が海外で継続伸長



© Terumo Corporation

2014/11/5

2/26

決算のハイライトについてご説明します。

全社業績については第1四半期に引き続き増収・増益を確保しました。

この原動力は心臓血管カンパニーで、海外でカテーテル事業およびニューロ事業が二桁の伸長だったことが要因です。

ホスピタルカンパニーは、消費税引き上げの反動に加え、医療保険制度の改定などによる受診抑制の動きなどにより、売上確保に苦戦しました。

ただし、基盤医療器を中心とした原価改善は進んでいます。

血液システムカンパニーは、引き続き厳しい市場環境でしたが、海外の売上が好調で増収増益のトレンドを維持しております。

海外での血液自動製剤化システムやアフェレシス治療は継続して伸長しています。

## 増収増益、営業利益 8%増

	(億円)			
	13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
売上高	2,260	2,333	+3%	+0%
粗利益	1,172 (51.8%)	1,229 (52.7%)	+5%	+1%
一般管理費	714 (31.5%)	763 (32.8%)	+7%	
開発費	153 ( 6.8%)	136 ( 5.8%)	-11%	
営業利益	305 (13.5%)	330 (14.1%)	+8%	+3%
(のれん等償却除く)	385 (17.0%)	413 (17.7%)	+7%	+3%
経常利益	296 (13.1%)	340 (14.6%)	+15%	
純利益	195 ( 8.6%)	219 ( 9.4%)	+12%	
期中平均レート	US\$ 99円	103円		
	EUR 130円	139円		



© Terumo Corporation

2014/11/5

3/26

決算概要について説明いたします。

売上高は前年比3%増の2,333億円となりました。

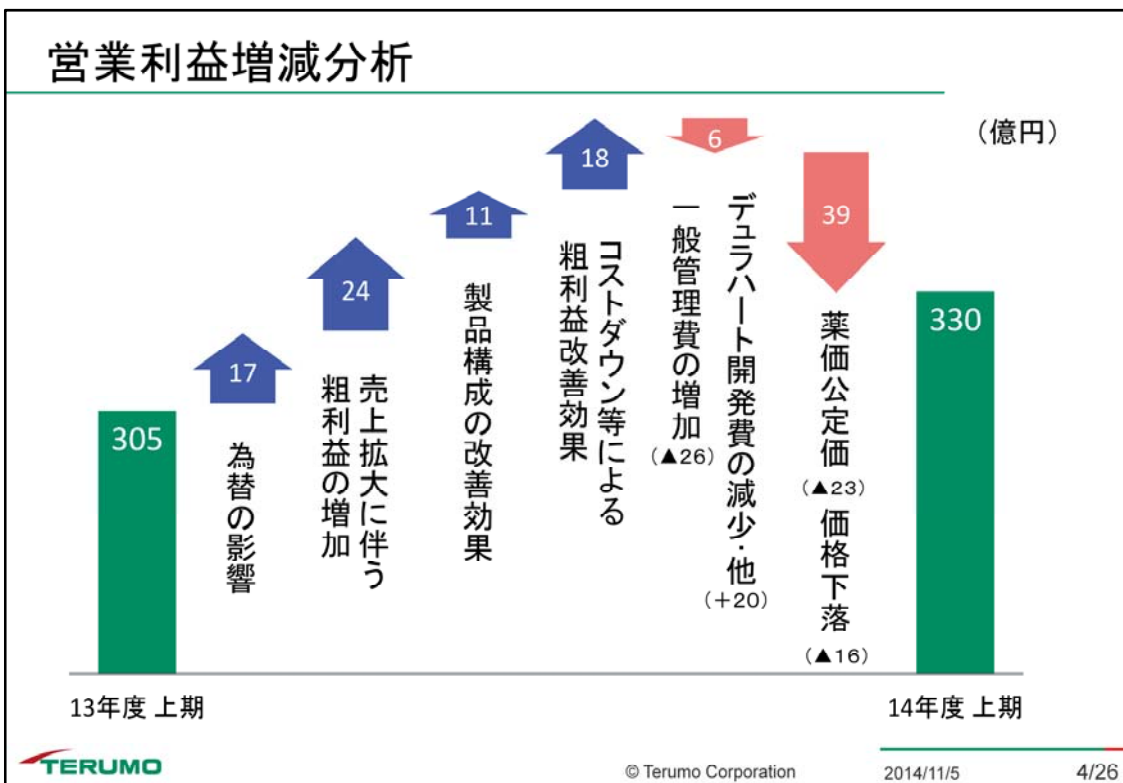
営業利益は330億円と前期比プラス8%の増益となりました。

経常利益は15%増の340億円で為替差益25億円を含んでおります。

なお、今年度は、前年度と比べ税率が高かったため、純利益は12%増の219億円となりました。

利益については増益にとどまらず、粗利益率が51.8%から52.7%、

営業利益率は13.5%から14.1%と利益率も改善しております。



このスライドは営業利益の増減を示しております。

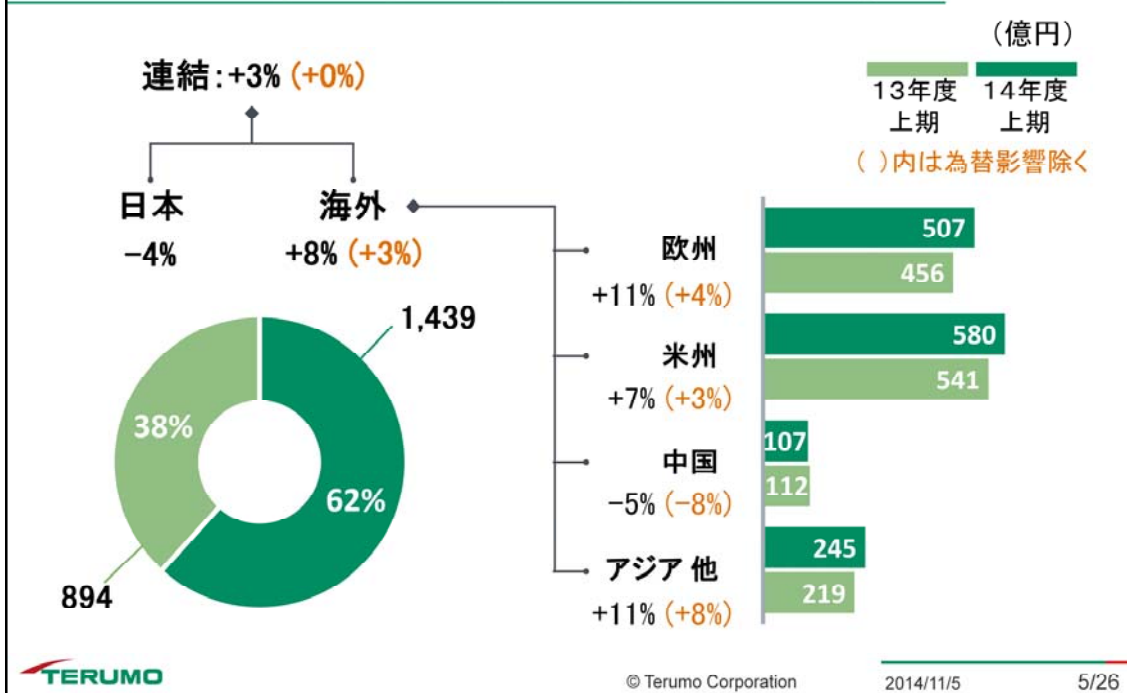
先にマイナス要因からですが、価格下落は、今年は薬価公定価改定の影響があり、さらに価格プレッシャーもあり、39億円のマイナス要因がありました。

また、一般管理費は26億円増えましたが、デュラハート開発費の減少などで開発費が前年比で20億円減少したことで、一般管理費と開発費の合計では6億円のマイナス要因となりました。

一方でプラス要因は、為替による影響が17億円、売上拡大に伴う粗利益増加のプラス効果が24億円ありました。

また、収益性が高い心臓血管の製品構成が高まったことで11億円、更にコストダウンによる効果が18億円となり、その結果、営業利益は前年同期の305億円から25億円増加して330億円となりました。

## 地域別売上高：海外好調、中国は流通再構築中

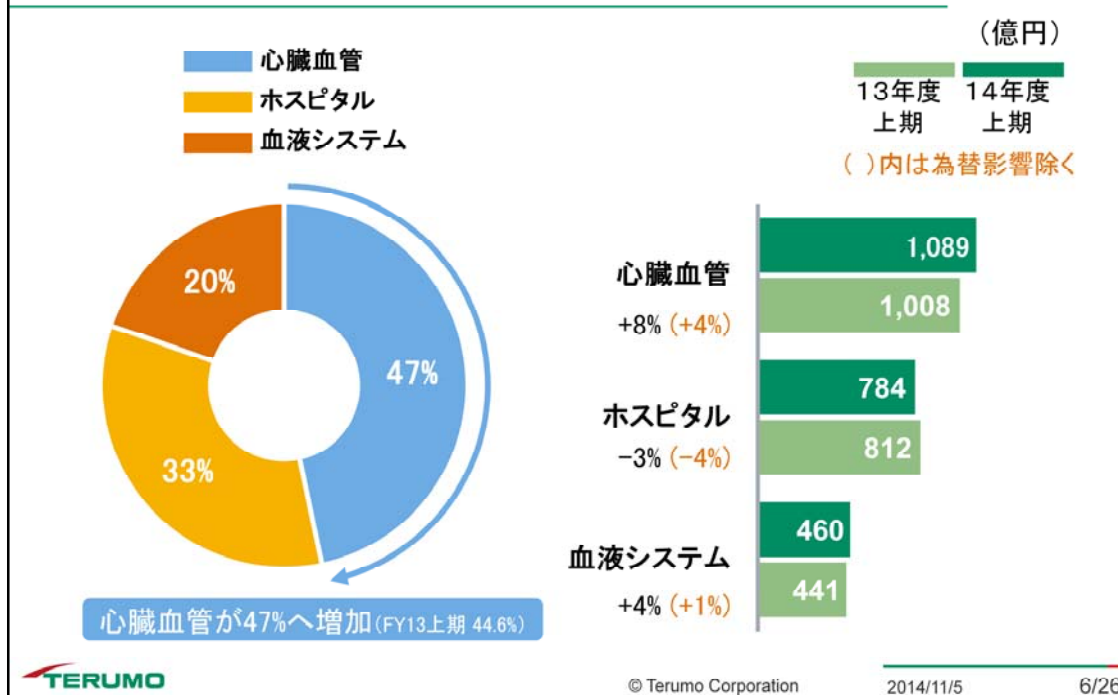


地域毎の売上です。第1四半期から引き続き、日本でのマイナスを海外の伸長がカバーしました。

日本では4%減に対して、海外が8%増でした。この結果、海外売上比率は62%となりました。

海外の地域別につきまして、第1四半期にもお話したとおり、中国については現地流通網を再構築しております。その他の地域については、ほぼ二桁かそれに近い増収となっております。欧州で11%、米州で7%、アジアが11%それぞれ増え、海外トータルで8%の伸長でした。

## カンパニー別売上高



次はカンパニー別の売上高です。海外売上比率の高い心臓血管カンパニーと血液システムカンパニーが為替の影響もあり増収となっております。

ホスピタルカンパニーは減収でした。

円グラフのとおり、海外比率の高い心臓血管カンパニーが、為替の助けもあり全体の47%まで増加いたしました。

## カンパニー別事業利益

(億円)

		13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
事業利益	心臓血管	201 (20%)	215 (20%)	+7%	-1%
	ホスピタル	109 (13%)	96 (12%)	-12%	-13%
	血液システム	89 (20%)	93 (20%)	+4%	+0%
	その他※	-14	9	-	-
営業利益 (のれん等償却除く)		385 (17%)	413 (18%)	+7%	+3%

※ その他：カンパニーに直接関連しない項目  
13年度(デュラハート開発費等)、14年度(本社部門費削減効果等)



© Terumo Corporation

2014/11/5

7/26

次はカンパニー別の事業利益の状況です。

心臓血管カンパニーと血液システムカンパニーで増益、ホスピタルカンパニーは減益となりました。

利益率については前年度と変わらない率となっています。

以下、カンパニー毎に内容を説明していきます。

## 心臓血管カンパニー：増収増益を達成

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
売上高	1,008	1,089	+8%	+4%
事業利益(率)	201 (20%)	215 (20%)	+7%	-1%

### <売上面>

- 海外カテーテルやニューロ製品(ステント等)の売上伸長 +68億
- 欧米を中心にCV製品(人工肺やモニターなど)が伸長 +17億
- 公定価改定の影響 ▲19億

### <利益面>

- IS事業を中心とした原価改善効果 +6億
- Ultimaster(新DES)を欧州に加えアジア・中南米へ拡大中



© Terumo Corporation

2014/11/5

8/26

心臓血管カンパニーの売上高は1,089億円となり8%伸長、事業利益は7%伸長の215億円でした。

売上では公定価改定の影響が全てのカンパニーの中で最も大きく出ており、19億円のマイナスとなっておりますが、海外でのカテーテルやニューロバスキュラー製品の売上が68億円と大きく伸長したことでカンパニー全体で増収となっております。

また、IS事業を中心とした原価改善を進めており、利益面では6億円のプラス効果が出ております。



## ホスピタルカンパニー: 市場環境変化により減収減益

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
売上高	812	784	-3%	-4%
事業利益(率)	109 (13%)	96 (12%)	-12%	-13%

### <売上面>

- 国内: 消費税引き上げの反動、医療市場の環境変化等 ▲17億
- 米州: 基盤医療器の低収益ビジネス見直し ▲7億
- 薬価・公定価改定の影響 ▲4億
- 欧州: 製薬向けB2B事業が二桁伸長 +5億

### <利益面>

- 基盤医療器を中心とした原価改善効果 +5億



© Terumo Corporation

2014/11/5

9/26

次はホスピタルカンパニーです。

売上高は784億円となりマイナス3%、事業利益は96億円でマイナス12%の減少です。

売上については消費税の引き上げの反動、医療市場の環境変化などによりマイナス17億円、米州での低収益ビジネスの見直しにより、利益率は改善しておりますが、売上では7億円のマイナスになりました。

欧州では既にポートフォリオ改革を発表しておりますが、高収益な製薬企業向けのB2B事業は二桁で伸長し、5億円のプラスとなりました。

利益面では、基盤医療器の原価改善効果が5億円となりました。

事業利益率は対前年の13%から12%と1ポイント悪化していますが、これは前年度の第2四半期の利益率が高かったことによるもので、前年度第4四半期から比べると着実に改善してきています。

この点については松村から後ほど詳しく説明いたします。

## 血液システムカンパニー：厳しい環境下、増収増益

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
売上高	441	460	+4%	+1%
事業利益(率)	89 (20%)	93 (20%)	+4%	+0%

### <売上面>

- アフェレシス治療が海外で二桁伸長 +9億
- 血液自動製剤システムがグローバルで二桁伸長 +13億
- 米国：医療費削減を背景とした価格圧力の影響 ▲4億

### <利益面>

- 売上状況に応じた収益マネジメントを実施



© Terumo Corporation

2014/11/5

10/26

血液システムカンパニーです。

売上高は460億円となり、4%伸長でした。

事業利益は93億円、3%の伸長、事業利益率は20%を維持しました。

このカンパニーは日本、海外とも厳しい環境にありまして、コモディティ製品である血液バッグは苦戦しております。一方、アフェレシス治療が海外で二桁伸長し、さらに血液自動製剤システムがグローバルで二桁伸長し、13億円の増収となっております。これら新しい分野での売上の伸びが血液カンパニーの増収増益を支えており、下期以降も伸ばしたいと考えています。

## 14年度上期 ローンチ済み製品

領域	製品		地域
心臓	新DES(自社開発)	◎◎★	欧・南米・亜
ペリ フェラル	皮下植え込み型 薬液注入システム		日
	肝動脈化学塞栓術 オクリュージョンマイクロバルーン	★	日
アブレーション	腎除神経カテーテル		亜・南米
	TRI腎除神経カテーテル		亜・南米
脳	頸動脈ステント	★	欧
輸液 システム	閉鎖式輸液システム	◎	日
	閉鎖式抗がん剤 投与システム		日
栄養	逆流防止型流動食	★	日



新DES (Ultimaster)

★柔軟性と独自の  
コーティング技術



頸動脈ステント (CASPER)

★プラーク剥離を抑制  
し脳梗塞防止を期待



オクリュージョンマイクロバルーン  
(アテンダントネクサス)

★より末梢の血管で  
肝動脈化学塞栓術  
が可能に



逆流防止流動食  
(マーメッド)

★胃に入ると固まる、  
逆流防止を期待

◎ 業績貢献 大  
★ イノベーション度 高



© Terumo Corporation

2014/11/5

11/26

このスライドは上期にローンチした新製品です。

自社開発品の薬剤溶出型冠動脈ステント「アルチマスター」が、欧州に加えて第2  
四半期に南米やアジアにも展開し、売上を伸ばしております。

# 下期の取組み

下期の取組みについて説明いたします。

## 下期へ向けた主な取り組み

### ■引き続き収益性改善に向けた取り組みを強化

### ■売上の巻き返し

- ▶心臓血管: IS・ニューロ新製品投入、既存品(主にアクセス)拡大
- ▶ホスピタル: ポンプ・輸液剤の拡販、新血糖計投入によるチップ拡大
- ▶血液システム: 血液自動製剤システム及びアフェレシス治療の拡大

### ■収益状況に応じた販管費の投下、開発のスピードアップ



© Terumo Corporation

2014/11/5

13/26

今年の4月からカンパニー経営を進めてきました。効果が収益に出ておりまして、収益マネジメント力が向上してきたと考えております。

下期も引き続き収益改善に向けた取り組みを強化していきます。

売上について、下期は上期より大きく積み上げる計画となっています。

心臓血管、血液システムについては、上期の成長ドライバーとなったISおよびニューロバスキュラー事業の新製品や、血液自動製剤システム、アフェレシス治療をさらに伸ばしていきます。

また、ホスピタルにおいてはポンプ、輸液剤の拡販、新血糖計投入によるチップの拡大により売上を伸ばしていく計画です。

上期は収益を中心ということで、販管費については若干抑えた分がありますが、下期は売上を伸ばしていくために必要な販管費はしっかりと投下し、開発についてもスピードアップを図ります。

## 14年度下期 ローンチ予定の製品

領域	製品		地域
心臓	新PTCAバルーン	◎	欧・南米・亜
ペリフェラル	PTAバルーン(膝上・膝下)		日・欧・米
	ステント細径化(Misago)		欧
脳	コイルアシスト・ステント	◎	米
	脳梗塞治療デバイス	◎★	欧
	液体塞栓剤(脳血管)	★	欧
輸液システム	閉鎖式輸液システム		亜
DM	血糖測定システム(カラー液晶)	◎	日
血液システム	成分採血装置(血漿)		日
	血液自動製剤システム	★	日
	血液治療装置(顆粒球・骨髄幹細胞)		米



脳梗塞治療デバイス(ERIC)

★独自のケージ連結型で、効率的な血栓除去を期待



液体塞栓剤(PHIL)

★世界初、開封後すぐ使えるプレフィルドタイプ

◎ 業績貢献 大  
★ イノベーション度 高

TERUMO

© Terumo Corporation

2014/11/5

14/26

下期についてはご覧の製品をローンチしていきます。

特にニューロバスキュラー事業において、右の写真にあるイノベーション度が高い製品を海外でローンチ予定です。

## 通期業績予想：後発事象を考慮し純利益を下方修正

(億円)

	通期業績予想	今回修正	増減	増減率
純利益	375	335	-40	-10.7%

想定期中平均レート：US\$ 100円、EUR 140円

### <修正理由>

2014年10月23日に開示した「欧州のホスピタル事業ポートフォリオ改革」に伴い、64億円の特別損失を第3Qに見込む



© Terumo Corporation

2014/11/5

15/26

最後に通期の業績予想ですが、10月23日に「欧州のホスピタル事業ポートフォリオ改革について」を公表しました。

最大で260名の人員に影響があるとお伝えしましたが、この改革にかかる費用を説明していませんでした。

第3四半期に64億円の特別損失を見込んでおり、業績予想の純利益を当初公表していた375億円から40億円を減額した335億円へと修正します。

想定期中平均レートは1ドル=100円、1ユーロ=140円と変更はありません。

以上で、2015年3月期 上期の決算概要の説明を終了します。

# 参考資料



## 事業別 地域別売上高と伸長率(上期)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外				合計	
		計	欧州	米州	中国		アジア
心臓血管	235 (-3%)	854 (6%)	317 (6%)	356 (8%)	83 (-9%)	100 (15%)	1,089 (4%)
うちカテーテル※	181 (-4%)	634 (7%)	250 (7%)	232 (11%)	77 (-10%)	76 (11%)	816 (4%)
ホスピタル	599 (-4%)	185 (-4%)	60 (1%)	37 (-19%)	7 (19%)	80 (-1%)	784 (-4%)
血液システム	60 (-4%)	400 (1%)	131 (2%)	187 (-1%)	17 (-8%)	65 (10%)	460 (1%)
合計	894 (-4%)	1,439 (3%)	507 (4%)	580 (3%)	107 (-8%)	245 (8%)	2,333 (0%)

※ニューロバスキュラー事業含む  
( )内は為替影響除く対前年同期伸長率



© Terumo Corporation

2014/11/5

17/26

## 販管費

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減	増減率
人件費	313	339	+26	+8%
販促費	70	76	+6	+8%
物流費	54	53	-1	-2%
償却費	109	119	+10	+8%
その他	168	176	+8	+6%
一般管理費計	714 (31.5%)	763 (32.8%)	+49	+7%
研究開発費	153 (6.8%)	136 (5.8%)	-17	-11%
販管費合計	867 (38.3%)	899 (38.6%)	+32	+4%

( )内は対売上高%

## 販管費

(億円)

	13年度 上期※	14年度 上期	増減	増減率
一般管理費計	737	763	+26	+4%
研究開発費	156	136	-20	-13%
販管費合計	893	899	+6	+1%

※為替の影響を除いた換算値

## 四半期の動き

(億円)

	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	14年度 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上高	1,149	1,192	1,221	1,149	1,184
粗利益	601(52.3%)	615(51.6%)	633(51.9%)	607(52.8%)	623(52.6%)
販管費	430(37.4%)	437(36.7%)	463(37.9%)	446(38.8%)	454(38.3%)
営業利益	171(14.9%)	178(14.9%)	170(14.0%)	161(14.0%)	169(14.3%)

期中	US\$	99円	100円	103円	102円	104円
平均レート	EUR	131円	137円	141円	140円	138円

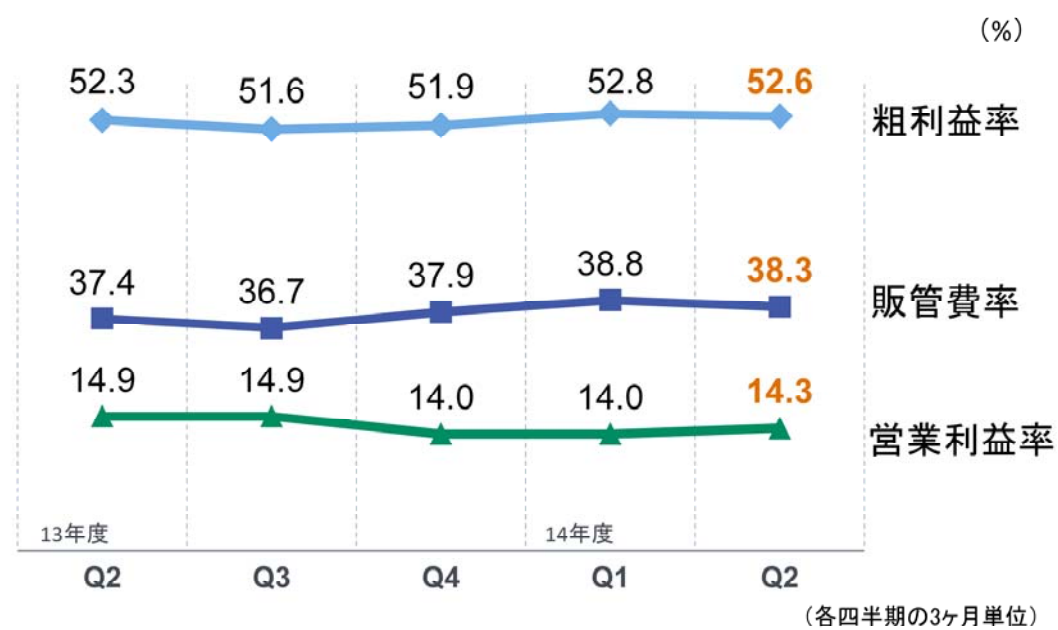


© Terumo Corporation

2014/11/5

20/26

## 粗利益率、販管費率、営業利益率



TERUMO

© Terumo Corporation

2014/11/5

21/26

## 設備投資と研究開発費

(億円)

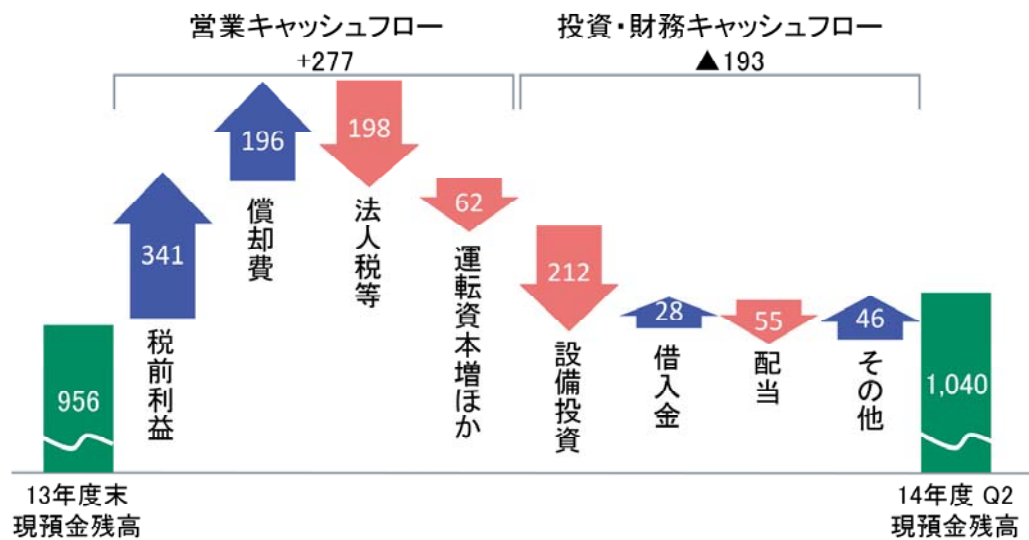
	14年度見通し	上期 実績	進捗率
設備投資	420	212	50%
償却費※	410	196	48%
研究開発費	310	136	44%

※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

# キャッシュフロー

- Q1での法人税負担あるが営業キャッシュフローは順調に回復
- 設備投資はほぼ計画通りの進捗
- 2015年3月にSB400億円償還予定

(億円)



© Terumo Corporation

2014/11/5

23/26

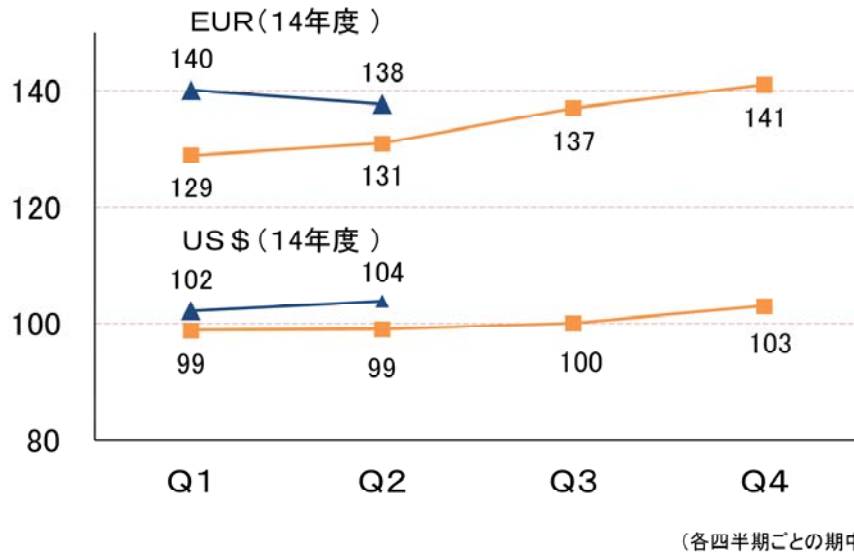
## 為替感応度

(億円)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4



## 四半期平均為替レートの推移



## おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。